

026集団発生事例対応から

寝屋川保健所 感染症チーム

松尾 由美

026 集団発生事例対応から

- * 1 事例概要
- * 2 保健所の対応
- * 3 事例を経験して
- * 4 終わりに

1 事例概要

寝屋川保健所管内医療機関から発生届(2015. 6.22)

3歳の保育園児 O-26(VT1+)

当該園で下痢症状の園児多数との情報

↓ **保育園調査(食中毒は否定)**

園児39名、職員1名が有症状(6/12～6/22)

↓ **接触者検便実施(除外診断でノロウイルス検査も)**

6月25日 O-26(VT1+)による集団感染と判断

23日 提出者3名 O-26(VT1+)

24日 提出分 ノロウイルス(-)

1 事例概要

470名に対して検便を実施

園児159名

職員41名

感染者の家族270名

菌陽性者は157名

園児111名

職員10名

家族36名

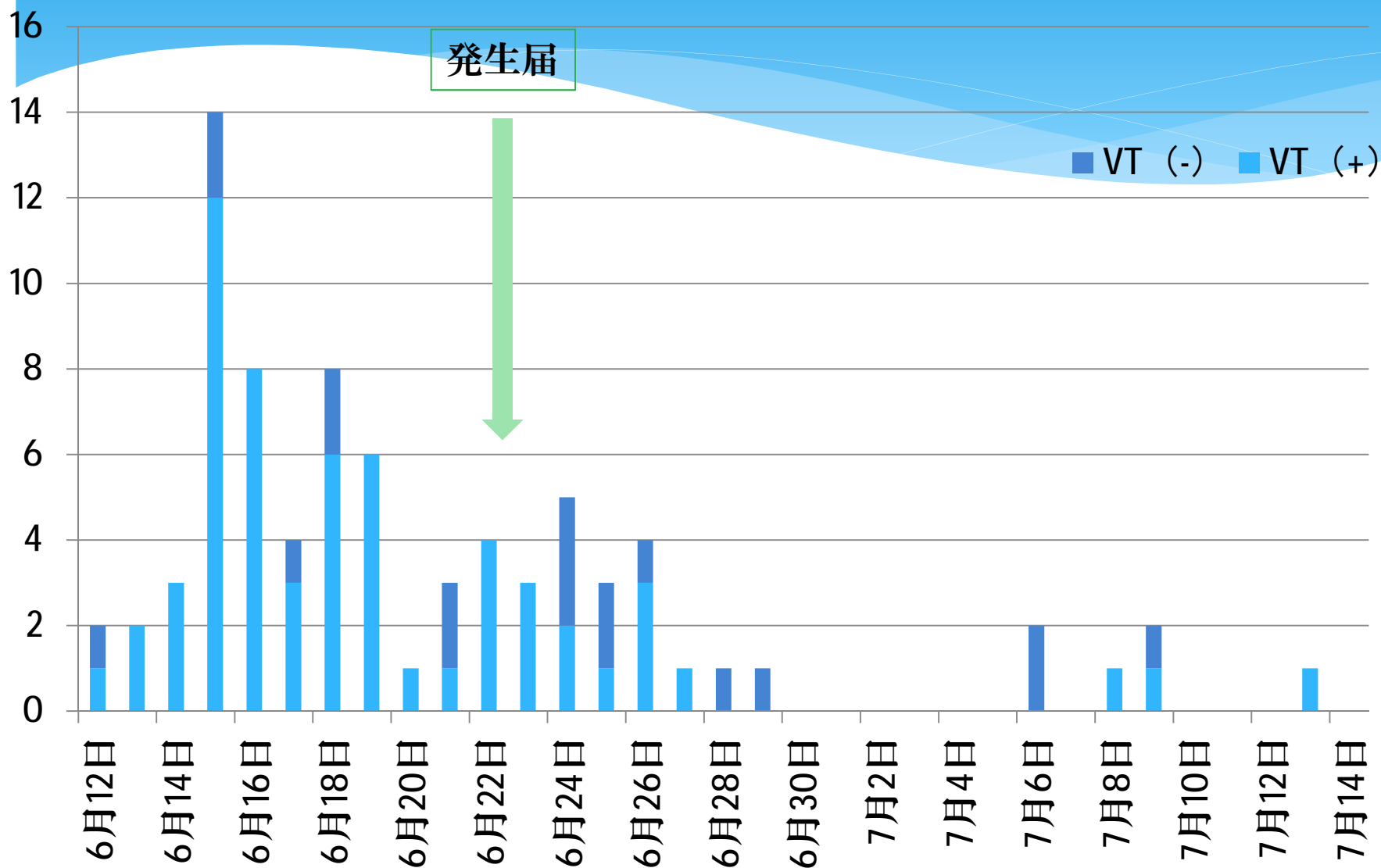
1 事例概要

- * 7月24日 園児の陰性確認すべて終了
- * 7月28日 終息を宣言

最初の発生届出から最終の園児の陰性確認までに32日間を要した。

(人数)

発症日別有症状者数



検便結果

	対象者数	VT(+)	VT(+) の有症状者
園児	159人	111人(70%)	59人(53%)
職員	41人	10人(24%)	1人(10%)
家族 接触者	270人	36人(13%)	8人(23%)
合計	470人	157人(33%)	68人(44%)

2 保健所の対応

* 保健所の体制

初動調査(感染症担当と食品担当)と対策会議

会議はポイントごとに招集開催、定期の状況把握

クロノロジー

時系列で詳細に客観的な記録を残す

ブロック所長の支援の有用性

困難事例も協議で解決策が見出すことができる

2 保健所の対応

感染症担当チーム(保健師)の活動

- * 手順書・検査のリーフレット作成
- * 服薬および検査状況確認体制整備
- * 管外依頼や検査未提出者への督促
- * 訪問体制(複数担当者での訪問)
- * 施設での面接体制(連絡調整担当の配置)
- * 物品や資料の準備(検査容器・調査書など)
- * 検体の受付搬送体制(迅速正確な対応)
- * 検査結果の把握と連絡(迅速正確な対応)

2 保健所の対応

感染症担当チーム(保健師)の活動

- * 服薬後菌の陰性化がみられない事例への対応
(標準的な薬剤以外の使用、量や期間の不足なども含む)
- * 妊婦などの特例の対応
- * 他の保育所、小学校に在籍の事例
- * 保護者からの相談対応

2 保健所の対応

* 関係機関との連携

当該施設(保育園)

関係機関(市の保育所担当課、教育委員会など)

医療機関(協力医療機関、医師会・病院協会等)

本庁(感染症担当課)

検査課(茨木保健所)

3 事例を経験して

* 集団感染について

保育所の特性から言える事

休園・周知等について

働く保護者の事情、保護者と保育所の関係

子ども集団の生活の場

O-26 VT1の特性から言える事

健康観察の重要性・正しい手洗いと消毒

3類感染症(ベロ毒素産生)

軽症の場合が多い、感染しやすい

3 事例を経験して

* 保健所の体制

発生時

的確で迅速な判断ができる司令塔

役割が明確なチーム体制

情報の把握・整理・共有

関係課(機関)との連携、調整

作業量が膨大になった時(応援体制の取り方・求め方)

平常時

日頃からの所内協力体制

管内諸機関との協力連携体制 信頼関係

地区診断・社会資源の把握

3 事例を経験して

寝屋川保健所での今後に向けた対策

- ①対応開始時に体制や役割を決定し関係者全員に周知する
- ②外部への応援依頼手順の確認
- ③事務処理を正確・迅速に行うための手順・人材・場所等の準備
- ④リーフレットや紹介状のひな形等の準備
- ⑤対象者の氏名・連絡先等を迅速・正確に把握する方法の工夫

3 事例を経験して

寝屋川保健所での今後に向けた対策

- ⑥検便(疫学調査)の時期や非協力者への対応基準の明確化
- ⑦対象者管理用データベース作成
- ⑧管内感染症ネットワーク体制の充実
- ⑨関係者の人材育成(研修等)
- ⑩各施設(保育園)に健康管理の総括責任者設置依頼

4 今後のために大事にしたい事

経験の蓄積・共有

ご協力ありがとうございました